



総合トップ > 医薬・医療 > 「創業事業に投資で株価は10倍」、ファーマフーズの金武祚社長に聞く

「創業事業に投資で株価は10倍」、ファーマフーズの金武祚社長に聞く

2014年11月18日 13:00

伊藤勝彦

Twitter いいね! 0

ファーマフーズの2014年7月期の業績については、売上高は前年同期比5.9%増の16億1400万円となった。その一方で、利益面では販売管理費がかさみ、営業利益は2800万円の赤字に転落した。この販管費の増加は、今後成長が期待できる創業事業と通信販売事業に対する投資が主なものであった。



画像のクリックで拡大表示

同社の成長を担う創業事業。その事業を行うバイオメディカル部門の前身は関連会社だった広島バイオメディカルである。広島バイオメディカルは、広島大学の松田治男教授の鶏卵抗体技術を医薬品に応用すべく、ファーマフーズと松田教授が共同で設立した会社。ファーマフーズはこの広島バイオメディカルを2013年9月に吸収合併した。

同部門の2014年7月期の売り上げは、前年同期からは800万円減収の5200万円。売り上げは全て抗体受託作製によるものである。ただし、同部門の本来の役割は、医薬品シーズの創製である。現在は、二ワトリ抗体創業事業と骨形成ペプチド創業事業が2つの柱となっている。

抗体創業事業では、関節リウマチと悪性腫瘍に対する治療薬の開発を進めている。関節リウマチの治療薬候補については2015年7月期に製薬企業とのオプション契約の締結を目指す。同社ではその対価を1億5000万円と予想する。骨形成ペプチドのリプロタイト（reprotide）は特許を出願して2016年7月期には製薬企業との共同研究契約を締結する計画である。

ギャバ（γ-アミノ酪酸：GABA）などの機能性素材の開発と販売を中心に事業を進めてきたファーマフーズであるが、創業事業においても大きな収益が期待できる段階まで事業が進捗してきた。この状態に市場も反応した。2014年10月1日の同社の株価終値は280円であったが、11月17日のそれは2840円で引けた。この1カ月半で株価は10倍となった。決算・創業事業などについて、金武祚社長に話を聞いた。

——2014年7月決算を振り返り、コメントをいただきたい。

「期初には17億5000万円を計画した。しかし、中国と韓国への機能性素材の案件が、8月以降に売上計上することになった。私自身としては、計画を達成できる実力が付いたと思っている。約束は必ず守る会社にならなくてはならない。2017年7月期に売上高50億円、営業利益15億円を目指しており、そのための1歩として17億5000万円を達成しなければならぬと社員には言ってきたが、結果としては未達となった」

——事業の現状と2015年7月期の業績計画について教えてほしい。

「元来のビジネスである素材の企業への取引（B to B）、消費者との商取引（B to C）、そして創業事業の3本柱としている。私たちのヒアルロン酸誘導ペプチドである『iHA（アイハ）』を健康食品の通信販売事業を営むエバーライフに収めている。iHAはエバーライフの商品『皇潤プレミアム』に含有されている。皇潤プレミアムの売り上げはiHAの納入量で把握できるわけで、大きく伸びていることが分かった。我々もB to Cのビジネスをやるべきだと考えて参入した。B to Cのビジネスを始めてみると大変面白い。ラジオ、テレビ、紙媒体での宣伝が功を奏し、売り上げは急拡大している。非常にうまくいっている。2014年7月期の通販事業の売上高は1億9200万円だったが、2015年7月期は7億2500万円を計画している。また、B to Bでは米国と中国が伸びている。2015年7月期は売上高で25億円、営業利益は2億円としている」

——創業事業分野に参入した経緯は。

「本来、私が会社を設立した目的は、医薬品開発をすることだった。しかし、大学の先生ではない私は『バイオ企業だから赤字である』ということは、（市場に対して）失礼に当たると考えてきた。遠回りしてきたが、10年という時間をつかって組織を作り、機能性商品の開発をしてきた。ファーマフーズを東京証券取引所マザーズへ株式上場させた。そし

→ 日経バイオテクについて

→ 購読・メルマガお申し込み

お知らせ

『日経バイオテク』最新号・11月10日号 目次
分子生物学会の会場でアンケートを実施します
12月5日：中国・ASEAN進出セミナー開催
12月10日：ゲノム情報セミナー開催決定
『バイオ年鑑2015』予約申込受付開始！
「Webマスターの憂鬱Premium」新企画始まる

研究職の
お仕事情報は
こちら

求人数は
業界トップクラス！

理系の転職なら

テンプR&D



日経バイオテクONLINE アクセスランキング

	昨日	週間	月間
1位	日経バイオテク11月10日号「バイプライン研究」、腎臓癌治療薬		
2位	Wmの憂鬱、このままでは日本がまた置いてきぼり、豪Cancer2015の衝撃【...		
3位	日経バイオテク11月10日号「主要バイオ特許の登録・公開情報」		
4位	【連載】寛和久満夫の深読み科学技術政策（第44回）、「日本の基礎医学研究の危機...		
5位	慶大、肥大型心筋症患者からiPS細胞を作製、発症にエンドセリン-1が関与		
6位	シミック、JCLバイオアッセイを完全子会社へ		
7位	「アルツハイマー病には先制治療薬の開発が必要」、血液バイオマーカーを発見した国...		
8位	日本人進行固形癌に抗PD-1抗体 pembrolizumabは安全に投与可能、悪...		
9位	米Cognition社など、シグマ-2/PGRMC1受容体がアルツハイマー病の...		
10位	Wmの憂鬱、抗VEGFR2抗体CYRAMZAの商品化が拓いた脱個の医療の可能性...		

て、調達した資金のうち、億単位のお金を広島バイオメディカルに投資した。30年来、広島大学の松田先生とは鶏卵抗体の研究において交流があった。広島バイオメディカルでは、6年半あまりの時間を費やし5つのパイプラインを作り出した。広島バイオメディカルを2013年9月30日に吸収合併。その翌日の10月1日には、後戻りできないように創業事業分野での本格展開を目指すことと公表した。背水の陣ということだ]

——パイプラインについて教えてほしい

「リプロタイトは、動物モデルに経口で投与しても、骨形成を促すことから興味を持っていただいている。現在、数社の製薬会社が導入を検討している。関節リウマチの治療薬候補については、抗原に対する抗体がなかなか作製できなかったため、当社に先生が相談に来られた。当社で作製したところ特異性の高い抗体が取れた。既存薬や開示されている候補品とは異なる抗原を標的としている。この抗原の働きを抑制することで、関節リウマチの発症の初期の段階を抑えることができると考えている。非臨床試験を実施しており、現在、製薬企業を複数社の中から選定している状況にある。悪性腫瘍治療薬は腫瘍特異抗原に対する抗体で、状況次第では早期に詳細を発表できるのではと考えている。その他、特異性肺線維症治療薬や高病原性鳥インフルエンザの診断薬のプロジェクトを行っている」

——医薬品開発には多額の研究開発費が必要であるが、その点をどのように考えているのか

「チャンスと思えば、研究開発費に投資をする。タイミングを逃してはいけない。瞬時には赤字になるときもあるかもしれないが、赤字が長く続くことはない。リスクを最小化することが、自分の仕事であると考えている」

関連記事

ファーマフーズの2014年7月期決算は増収減益、関節リウマチ治療薬候補の契約金は1億5000万円を見込む (2014-9-29) [1pt](#)

ファーマフーズ、抗悪性腫瘍抗体は動物実験段階 (2014-3-31) [1pt](#)

日経バイオテク3月17日号「点検、バイオ銘柄」、ファーマフーズ (2014-3-19) [1pt](#)

ファーマフーズ、創業事業開始を表明、研究開発費は増加の見込み (2013-10-2) [0pt](#)

株式会社ファーマフーズ、メガソーラー事業のお知らせ (2014-9-16)

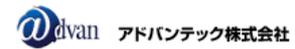
ファーマフーズ、2015年7月期に売上高20億円、純利益2億円へ (2012-9-27) [1pt](#)

株式会社ファーマフーズ、株式立会外分売実施に関するお知らせ (2013-3-28)

株式会社ファーマフーズ、中期経営計画に関するお知らせ (2013-12-13)

ファーマフーズ、株式立会外分売に関するお知らせ (2013-3-21)

記者発表、ファーマフーズ、海外市場参入状況に関するお知らせ (2007-3-8)



分野別ランキング (週間)

	医薬 ・医療	基礎 ・研究支援	食品・農業 ・環境	投資・行政 ・社会
1位	日経バイオテク11月10日号「パイプライン研究」、腎臓癌治療薬			
2位	日経バイオテク11月10日号「キーパーソンインタビュー」、リボミックの中村義一...			
3位	日経バイオテク11月10日号「業界ごぼれ話」、どうなる? テルモとセルシードの...			
4位	日経バイオテク11月10日号「編集長の目」、臨床試験という創業の壁			
5位	バイエル薬品、オープンイノベーションセンター設置の狙い			
6位	武田薬品工業と英GE Healthcare社、肝炎における治療薬と診断技術の...			
7位	ディナベック、臨床向けのiPS細胞作製用センダイウイルスベクターの製造を開始			
8位	「アルツハイマー病には先制治療薬の開発が必要」、血液バイオマーカーを発見した国...			
9位	J-TEC、再生医療新法に基づくコンサルティングサービスと細胞加工受託を開始へ			
10位	武田、抗癌剤の併用療法の評価系で米Presage社との契約拡大			

→ バイオ事業のご案内

→ 広告お問い合わせ

テーマサイト

日経バイオテクONLINE アカデミック版
 日経バイオテクONLINE 機能性食品版
 日経バイオテクONLINE 環境・農業版
 日経バイオテクONLINE for Investors
 日経バイオテクONLINE Webマスターの憂鬱 Premium
 日経バイオ年鑑2014
 日経バイオ年鑑2013

会社案内 個人情報保護方針/ネットにおける情報収集/個人情報の共同利用 著作権について 広告ガイド お問い合わせ ご利用ガイド 利用規約

© 1996- 2014 Nikkei Business Publications, Inc. All Rights Reserved.

日経BP社